

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-13	高等学校	地理歴史科	日本史A	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	日 A314	現代の日本史 改訂版		

1. 編修の基本方針		
<p>(1)平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「日本史A」における科目の性格と目標および内容とその取扱いの趣旨に従い、近代・現代を中心とするわが国の歴史の展開を世界史的視野と国際環境との関連を重視し、具体的に理解できるよう編修した。</p> <p>(2)本書は標準単位数 2 単位の科目であるため、本文は、2 単位の授業に適切な分量となるよう、全 8 章にわけ、時代の特色と推移・発展が明確にとらえられるよう配慮した。また、国際関係を重視しながら、歴史の流れが具体的にとらえられるよう分野別に配列した。</p> <p>(3)構成や内容の選択にあたっては、幅広く高等学校の先生方の意見を反映させ、生徒の興味・関心、学習意欲を高められるよう配慮した。また独自の特色を打ち出すよう配慮した。</p> <p>(4)叙述にあたっては、公正なる立場から事項を精選するとともに、内容・表現には正確さを期するとともに、学界の新しい成果も盛り込んだ。</p> <p>(5)口絵は「近代・現代の街なみと暮らし」を掲げ、近代・現代の変化と推移を身近な題材から理解できるよう配慮した。「私たちの時代と歴史」「近代の追究」「現代からの探究」では、社会的な事象から主題を設定し、主体的な歴史学習をうながした。</p>		
2. 対照表		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
「近代」の始まりと社会の変化 [私たちの時代と歴史]	*「私たちの時代と歴史」では、主体的な学習をうながすため、「社会の変化」を題材に、具体的な資料に基づいて歴史を考察するための手段や方法をわかりやすく例示した(第 2 号)。	11~12ページ
第 1 章 開国と維新 1 明治維新の背景 2 西洋への開国 3 政治秩序の崩壊 4 王政復古と急進的改革 5 新たな対外関係の樹立と内乱の終結	*本文叙述にあたっては、地域や分野のバランスを考慮しつつ、公正な立場から客観的に詳述した(第 1 号)。  *第 1 章「開国と維新」、第 3 章「産業化の推進と国民生活の変化」などを通じて、わ	13~153ページ  14~42, 72~95 ページ

<p>第2章 近代国家の形成と発展</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 立憲政治をめざして</li> <li>2 憲法の制定と議会の開設</li> <li>3 東アジアの国際環境と条約改正問題</li> <li>4 清国との戦い</li> <li>5 藩閥・政党の対立と協力</li> <li>6 ロシアとの戦い</li> <li>7 日露戦後の国際関係と日本</li> </ol>	<p>が国が諸外国の文明・文化を摂取し、工夫と努力を重ねて発展させてきたことを理解させ、後述の第7章「日本の自立と経済成長」、第8章「現代の世界と日本」などで諸産業の発展を学ぶことで、現代の諸課題と向きあえることができるよう配慮した(第2号)。</p>	
<p>第3章 産業化の推進と国民生活の変化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 産業革命の進展</li> <li>2 資本主義の確立とその特色</li> <li>3 社会問題の発生</li> <li>4 国民文化の形成</li> <li>5 国民生活の変化</li> </ol>	<p>*コラムで「海外への視察と留学」「女子留学生と女子教育の発展」「人種差別撤廃問題と日本のユダヤ人政策」などの素材を取り上げ、国際社会の形成に主体的に参画する資質や能力を養うことができるよう配慮した(第3号)。</p>	<p>25, 90, 108ページ</p>
<p>第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第一次世界大戦と日本の外交</li> <li>2 デモクラシーの高まりと政党</li> <li>3 国際協調と軍縮の進展</li> <li>4 政党政治の時代</li> <li>5 大戦中から戦後の経済と社会</li> <li>6 都市化と大衆文化</li> </ol>	<p>*第3章3節「社会問題の発生」やコラム「空襲——重慶・東京・ドレスデン」などでは、生命の尊さや環境保全の重要性にも配慮した叙述を心がけた(第4号)。</p> <p>*文化史は、時代背景と関連づけて叙述するとともに、代表的な文化財は図版としても積極的に取り上げた。(第5号)。</p>	<p>79～82, 145ページ</p> <p>37～38, 83～95, 116～122ページ</p>
<p>第5章 第二次世界大戦と日本</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 昭和恐慌</li> <li>2 協調外交のゆきづまり</li> <li>3 満州事変から国際的孤立へ</li> <li>4 軍部の政治的台頭</li> <li>5 中国との戦い</li> <li>6 第二次世界大戦と世界新秩序</li> <li>7 太平洋戦争</li> <li>8 日本の敗北</li> </ol>		
<p>移民はなぜおこなわれるようになったのだろう [近代の追究]</p>	<p>*「近代の追究」では、主体的な学習をうながすため、「移民」について取り上げ、具体的な資料に基づいて近代史を考察し、追究するための手段や方法をわかりやすく例示した(第2号)。</p>	<p>154ページ</p>
<p>第6章 占領下の日本</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 占領政策の展開</li> <li>2 戦後民主主義の定着</li> <li>3 政治・経済の再建</li> <li>4 独立の回復</li> </ol> <p>第7章 日本の自立と経済成長</p>	<p>*本文叙述にあたっては、地域や分野のバランスを考慮しつつ、公正な立場から客観的に詳述した(第1号)。</p> <p>*前述の第1章「開国と維新」、第3章「産業化の推進と国民生活の変化」などを通じ</p>	<p>156～209ページ</p> <p>174～209ページ</p>

<p>1 55年体制の成立</p> <p>2 安保体制下の日本</p> <p>3 高度成長の光と影</p> <p>第8章 現代の世界と日本</p> <p>1 激動する世界</p> <p>2 国内政治の再編成</p> <p>3 アジア・太平洋地域と日本</p> <p>4 21世紀の課題</p>	<p>て、わが国が諸外国の文明・文化を摂取し、工夫と努力を重ねて発展させてきたことを理解させ、第7章「日本の自立と経済成長」、第8章「現代の世界と日本」などで諸産業の発展を学ぶことで、現代の諸課題と向きあえることができるよう配慮した(第2号)。</p> <p>*第7章3節「高度成長の光と影」やコラム「災害と危機管理」などでは、生命の尊さや環境保全の重要性にも配慮した叙述を心がけた(第4号)。</p> <p>*コラム「国際機関で活躍する日本人」などを通じて、国際社会の平和と発展に寄与することへの関心が高まるよう配慮した(第5号)。</p>	<p>183～188, 200ページ</p> <p>209ページ</p>
<p>身近な事象と私たち [現代からの探究]</p>	<p>*「現代からの探究」では、主体的な学習をうながすため、現代の身近な事象を具体的な資料に基づいて歴史的に考察し、探究するための手段や方法をわかりやすく例示した(第2号)。</p>	<p>210～211ページ</p>

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- (1)各節の冒頭に問いかけ文と写真を入れ、課題をもって学習に取り組むことで、思考力が養われるよう配慮した。
- (2)本文の叙述を補足するため、必要に応じて注をつけた。
- (3)わかりやすさ、学習上の便宜を考慮して、ふりがなや参照ページなどを適宜挿入した。
- (4)世界史との関連を重視し、世界の中での日本の位置づけと日本の中での世界の動きの影響を、本文にとどまらず地図などを用いて具体的に理解できるよう編修した。
- (5)図版は、生徒が興味をもてるような写真を中心に選択し、史料・図解・系統図・整理表などを適宜挿入して、本文理解をたすけることにした。
- (6)図版は、できる限り大きく掲載した。また、地図・グラフ類は専門家による校閲のもと、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、読み取りやすい表現方法での作図を心がけた。
- (7)コラムを16テーマ設け、各時代の特徴を印象深くとらえられるよう配慮した。
- (8)口絵として生徒に身近な事象を取り上げることで、現代が過去と無関係でないことに気づかせ、主体的に考察することができるよう配慮した。
- (9)巻頭資料として「開国までの歴史」を入れ、近世以前の歴史の流れを振り返ることができるようにし、幅広い視点をもてるように配慮した。
- (10)巻末資料として年表を入れ、世界の動きも含めた近代・現代史の歴史の流れを見通せるようにした。
- (11)教育現場の教科書に関する要望・意見などを十分に検討し、可能な限り叙述に生かすよう努めた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-13	高等学校	地理歴史科	日本史A	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	日A314	現代の日本史 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1) 内容の全体にわたって、国際環境や地理的条件などと関連づけて叙述するとともに、地図や年表などの諸資料も適宜掲載した。また、図版の作成にあたっては、見やすさ・わかりやすさにも配慮した。
- (2) 日本文化の特色や形成過程が総合的に理解できるよう、文化史は時代背景と関連づけた叙述を心がけた。また、生活文化に関連する内容も多く取り上げた。
- (3) 各節の冒頭に問いかけ文と写真を入れ、課題をもって学習に取り組むことで、歴史的な思考力が養われるよう配慮した。
- (4) 「私たちの時代と歴史」「近代の追究」「現代からの探究」では、社会的な事象から主題を設定し、資料を活用して過去とのかかわりから現在を考察する方法を具体的に例示した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
「近代」の始まりと社会の変化 [私たちの時代と歴史]	(1) 私たちの時代と歴史	11～12	2
第1章 開国と維新 1 明治維新の背景 2 西洋への開国 3 政治秩序の崩壊 4 王政復古と急進的改革 5 新たな対外関係の樹立と内乱の終結	(2) 近代の日本と世界 ア 近代国家の形成と国際関係の推移 イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢	13～43 ページ	10
第2章 近代国家の形成と発展 1 立憲政治をめざして 2 憲法の制定と議会の開設 3 東アジアの国際環境と条約改正問題 4 清国との戦い 5 藩閥・政党の対立と協力 6 ロシアとの戦い 7 日露戦後の国際関係と日本		44～71 ページ	10

<p>第3章 産業化の推進と国民生活の変化</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 産業革命の進展</li> <li>2 資本主義の確立とその特色</li> <li>3 社会問題の発生</li> <li>4 国民文化の形成</li> <li>5 国民生活の変化</li> </ol>		72～95 ページ	7
<p>第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第一次世界大戦と日本の外交</li> <li>2 デモクラシーの高まりと政党</li> <li>3 国際協調と軍縮の進展</li> <li>4 政党政治の時代</li> <li>5 大戦中から戦後の経済と社会</li> <li>6 都市化と大衆文化</li> </ol>		96～123 ページ	9
<p>第5章 第二次世界大戦と日本</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 昭和恐慌</li> <li>2 協調外交のゆきづまり</li> <li>3 満州事変から国際的孤立へ</li> <li>4 軍部の政治的台頭</li> <li>5 中国との戦い</li> <li>6 第二次世界大戦と世界新秩序</li> <li>7 太平洋戦争</li> <li>8 日本の敗北</li> </ol>		124～153 ページ	10
<p>移民はなぜおこなわれるようになったのだろう [近代の追究]</p>	ウ 近代の追究	154～155 ページ	2
<p>第6章 占領下の日本</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 占領政策の展開</li> <li>2 戦後民主主義の定着</li> <li>3 政治・経済の再建</li> <li>4 独立の回復</li> </ol>	(3)現代の日本と世界 ア 現代日本の政治と国際社会 イ 経済の発展と国民生活の変化	156～173 ページ	6
<p>第7章 日本の自立と経済成長</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 55年体制の成立</li> <li>2 安保体制下の日本</li> <li>3 高度成長の光と影</li> </ol>		174～189 ページ	6
<p>第8章 現代の世界と日本</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 激動する世界</li> <li>2 国内政治の再編成</li> <li>3 アジア・太平洋地域と日本</li> <li>4 21世紀の課題</li> </ol>		190～209 ページ	6
<p>身近な事象と私たち [現代からの探究]</p>	ウ 現代からの探究	210～211 ページ	2
		計	70